

実証実験/PoC段階

Main activities in 2019
(Field Operational Tests)

自律型モビリティシステムの開発・実証 (ヨコスカスマートモビリティチャレンジ2019)
 運転席無人で公道を時速30kmで自動運転
 横須賀リサーチパークの公道
 MEC
 Dynamic Map distribution
 Simultaneous operation of 4 self-driving cars

愛知県 自動運転社会実装実証事業
 3カ所でのユースケースに応じた最適なソリューション
 テマパーク: Entertainment with AR, On-demand dispatch by AI
 空港・国際展示場周辺: Cellular V2X, GNSS high-precision positioning
 本島: MaaS for sightseeing
 離島: Remote monitoring inside and outside bus

空港制限区域内 自動走行実証実験
 制限区域内での機材等の運搬を想定
 空港
 Remote monitoring at the airport

平城宮跡歴史公園パークスマートチャレンジ
 広大な国営公園のエリアに合わせたモビリティ提供
 公園: History experience with VR, Sightseeing information with APP
 Various mobility (self-driving car, personal mobility, share cycle)

Yokosuka-city

Aichi-Pref.
(Park,city,iland)

Airport
restricted area
(CHUBU
International
Airport)

Nara Palace
(Heijo-kyu)

提供価値

- 携帯電話ネットワークにより、遠隔地からの車内外映像の監視や緊急時の遠隔制御を可能とすることで、自動運転車の安心・安全な運行を実現します
- モバイルエッジコンピューティング技術やセルラーV2X技術により、車と車、車と路側インフラ等との間で交通環境情報のリアルタイムな共有を可能とすることで、自動運転車を含む交通流の最適化を実現します

概要

- 現在国内外において社会的課題を解決するために自動運転の早期の社会実装が求められており、携帯電話ネットワークへの期待が高まっています
- 携帯電話ネットワークを活用することで、これまで車単体で進化してきた自動運転が、あらゆるものつながらり協調して走行するよう高度化し、安全性や効率性をさらに高めることが可能となります
- また、自動運転を社会実装するためには、その場所の特性やニーズに応じた様々なソリューション（AIオンデマンド配車、ARコンテンツ、高精度衛星位置測位など）と組み合わせることが求められますが、そのためには携帯電話ネットワークが必要となります
- NTTドコモは全国各地において色々なユースケースを想定した実証実験を行い、自動運転の社会実装を推進しています

